まちびあ通信

To create a better city with our own hands.



特集

まちと人を結ぶ道 ~オリオン通り500メートルの軌跡と挑戦~



表紙の写真から:8月開催コドモールの様子。みなさん元気にお店に立ってくれました。



特集

まちと人を結ぶ道

~オリオン通り500メートルの軌跡と挑戦~

宇都宮市の中心部に位置する「オリオン通り商店街」。東武宇都宮駅前から約500メートル続くアーケードは、家族連れや学生、ご年配の方まで幅広い世代に親しまれてきました。今回は「宇都宮オリオン通り商店街振興組合」理事長であり、老舗「堺屋商店」を営む長島俊夫さんを訪ね、オリオン通りの歴史や地域とのつながりについてお話を伺いました。

江戸から令和へ_オリオン通りの歩み

宇都宮市中心部にある「オリオン通り」は、江戸時代から城 下町のにぎわいを担ってきました。明治末期から1945年にか けては戦火によってユニオン通りの半分が消失し、街の風景は 一変しましたが、戦後には軍隊関係者をはじめ多くの人々が足 を運び、少しずつ再生の歩みを始めました。1931年の東武鉄 道の開通、1959年の東武百貨店開業は大きな転機となり、オ リオン通りは再び注目を集める商店街へと生まれ変わりまし た。西武百貨店や上野百貨店などが次々と誕生し、一時は市内 に7つものデパートが立ち並ぶほどの活況を誇りました。1948 年当時、この通りにはまだ名前がなく、一条町・江野町・曲師 町という3つの町で形づくられていました。その位置関係が夜 空のオリオン座を思わせることから「オリオン通り」と呼ばれ るようになりました。1967年には、全国初となる全天候型ア ーケードが完成。これにより、天候に左右されず買い物を楽し める通りとして広く注目を集め、宇都宮の新たなランドマーク としての地位を確立しました。1960年には七夕祭りが始ま り、周辺商店街と合同で開催される宇都宮を代表する一大イベ ントとなりました。





▲オリオン通りの全天候型アーケード

活気を取り戻す挑戦

令<mark>和以降も、オリオン通りは変化に向き合い挑戦を続けていま</mark> す。2010年にはMEGAドン・キホーテ宇都宮店が開業し、令和 元年にはパルコ宇都宮店が撤退。揺れ動く商業バランスの中、約 8年前に導入された「店先3mオープンカフェ制度」によって、飲 食店が増え、街の雰囲気が一層にぎやかになりました。1995年 ~2000年にかけては通行量と店舗数がピークを迎え、宇都宮 の"中心"として大きなに<mark>ぎわい</mark>を見せていました。かつては西武 百貨店と東武百貨店を結ぶ通行ルートとしても頻繁に利用されて おり賑わっていましたが、総合スーパーの増加や、自動車産業進 出などの社会情勢変化、西武百貨店の撤退などにより、今では平 日の通行量は7,000~8,000人、土日で12,000~13,000人と、 最盛期を下回っています。来街者の選択肢を広げるためには、多 様な業種の誘致が課題となっています。約14~15年前には、空 き店舗が目立つ時期もありましたが、家賃を引き下げて借りやす くするなどの取り組みにより、徐々に改善されてきました。ま た、市の補助を受けた省エネ照明も導入され、明るく安心できる 空間づくりが進められています。

公益型商店街としてのオリオン通り

現在、宇都宮のオリオン通りには約130店舗が軒を連ね、全 長約500メートルのアーケードを形成しています。「公益型商 店街」という形を取り、地域に開かれた運営が続けられていま す。「宇都宮オリオン通り商店街振興組合」(加盟店舗数:62 店舗)、曲師町では「オリオン通り曲師町商業協同組合」が、 それぞれ組合を組織し運営にあたっています。なお、「オリオ ン通り商店街」という名称は全国でも複数存在し、宇都宮のほ か、群馬、甲府、沖縄などにも同名の商店街があります。

長島理事長が語る"停滞は許されない"

堺屋商店4代目の長島俊夫理事長は、宇都宮に来て53年目、 約40年商店街を支えてきました。先代理事長が急逝し、後継者 問題に揺れる中で理事長に就任。就任12年目となります。現在 も高齢化による組合の世代交代が課題であり「オリオン通りは 永遠に。停滞は許されない。そろそろ世代交代が近づいている ので、引き続き頑張ってもらいたい。」と力強く語ります。老 舗タケカワ時計店(商店街内だけで7店舗を展開、戦前創業の歴 史を誇る)や新店Patisserie Infiniを挙げ、「輝くオリオン通り にしたい」と期待を寄せます。老舗の重みと新しい風、両方が 息づく通りを目指しています。「安全で安心なオリオン通りに したい」という言葉通り、約25年前か<mark>ら防</mark>犯カメラを設置。2 年前には商店街振興組合、市役所、宇都宮中央警察署、宇都宮 まちづくり推進機構などと「オリオン<mark>通り</mark>治安対策連絡会議」 を設立しました。現在、約14台(3代目)の防犯カメラが稼働 し、その9割は補助金で賄われており、訪れる人々に安心感を 与えています。

文化と未来への取り組み

オリオン通りは、文化活動の拠点としても重要な役割を果たしています。かつて26年間続いた「オリオンバザール」は最盛期には80店舗が出店し、商店街の名物イベントとして親しまれてきましたが、出店者の減少や参加者の固定化が続き幕を閉じました。現在も宇都宮西小学校の児童をオリオンACぷらざに招き、お化け屋敷を開催するなど、地域密着型の取り組みを続けています。ACぷらざは"アート&カルチャー(美術と文化)"を意味し、1日4,950円(税込)で貸出可能とのこと。展覧会や音楽イベントなど文化活動の場としても活用されています。また、2023年LRT東側開通は、新たな来街者を呼び込み、商店街に再び活気をもたらす大きな契機となりました。2030年のLRT西側開通を見据え、理事と組合員は2か月ごとに勉強会を開き、LRTの仕組みや他地域の事例を学びながら、街の空洞化を防ぐための方策を模索しています。今後も、中小企業診断士や市の関係者、外部講師を招くなど、長期的なビジョンを描いています。

オリオンACぷらざ



▲商店街を支える長島俊夫理事長。オリオンACプラザの前にて。



▲夜のオリオン通りの様子

コロナ禍を乗り越えて

新型コロナウイルスの影響で一時的に通行量が減少したものの、多くの店舗が補助金を活用して営業を続け、現在ではほぼ元の水準に回復。街の空気には再び明るさと活気が戻りつつあります。

「オリオン通りを、星座のように輝く街に」――長島さんのこの言葉には、歴史を受け継ぐ責任と未来への希望が込められています。江戸時代から現代まで、何度も困難を乗り越えながら街を支えてきた人々の思いが、この500メートルの商店街には確かに息づいています。オリオン座の星々が夜空で変わらず輝き続けるように、これからも宇都宮の街を照らし続けることでしょう。

編集後記

オリオン通りは、歴史を人情が息づく場所。かつてのにぎわいを超える新たな魅力を生み出そうと、地域とともに歩みを進めています。その500メートルは、宇都宮の過去・現在・未来をつなぐ、まさに星座の輝きそのものだと感じました。(森)

うつのみや自治会39 第1回「今泉連合自治会」

宇都宮東口の玄関 今泉地区へようこそ♪

宇都宮市には約800の単位自治会があり、これらの単位 自治会は、39の地区ごとに連合自治会としてまとまってい ます。このコーナーでは、住民にもっとも身近なコミュニ ティ組織として頑張っている各地域の自治会に焦点をあ て、地域や活動の魅力を改めてご紹介します。今回は、ま ちぴあも立地している「今泉地区」をご紹介します!

今泉地区の原型と変貌

JR宇都宮駅東側に位置する今泉地区は、今泉小学校通学 区域である、元今泉・中今泉・宿郷・東宿郷の地域で構成 され、5自治会(今泉東・今泉南・今泉北・宿郷東・宿郷 西)が組織されています。「今泉」「宿郷」という地名 に、古代から戦国期における歴史的な由来を残したこの地 域は、長らく田川東に広がる湿地帯であり、明治期に東北 本線が開通した後も、のどかな農村だったそうです。





風景変貌の様子 ▲1966年頃の富士山神社周辺

▲都市を走るLRT

昭和3年に今泉小学校が開校し、地区の原型が出来ました。戦後の高度経済成長期の区画整理事業を経て、交通の利便性が向上すると一気に都市化が進みました。 閑静な住宅街と多くのマンションが立地し、 県内有数の繁華街も抱える、非常に多くの人が行きかう町に変貌を遂げました。

住民同士のかけ橋に ~今泉地区夏祭り・夏のタベ~

住民人口が増加する一方で、自治会加入率が40%程であるというのも、地区の特徴だそうです。小学校児童の約8割がマンション・アパートに住居しており、転居者も多いという傾向は今後も続くと推察されます。2023年8月にはLRTも開通し、現在も新しい住民が増え続ける地区では、住民同士の交流の輪を深めることに特に注力しています。

※掲載した写真は、「今泉地区ホームページ」からご協力頂きました。 今泉地区をさらに知ることができます。ぜひ、アクセスしてみて下さい♪



その一例が、今泉小学校で行われる地区の夏祭り「夏の夕べ」です。自治会をはじめとした地域の皆さんが協力し、縁日的なブースを構え、盆踊りや花火大会も行われます。自治会加入の有無に関わらず、子ども達だけでなく地域に住んでいる多くの住民が集まります。住民個人ではできない体験を提供することで、ご近所同士の顔の見える関係づくりを続けながら、地域活動への参加の楽しさを伝えています。

地区のこれからを見据えて

今泉地区では、今後、地区の地域ビジョンづくりに取り組むそうです。「地域ビジョン」とは、自治会等その地域の10年、20年後の将来を見据えた、各地区のまちづくり計画です。策定にあたりまずは、より多くの住民、広い世代の住民にアンケート調査を計画しているそうです。自治会加入世帯だけでなく、マンションやアパート、事業者、小学校などとも連携し、今泉地区に住んでいる全ての住民の皆さんの思いを集約したビジョンづくりを考えているそうです。県外・市外、国外にルーツを持つ住民の方も多い今泉地区が、全ての住民に優しく、安心・安全な地域の未来予想図をどんな風に描いていくのか注目です。

編集後記

今回は、大森幹夫今泉地区連合自治会長にお話しをお伺い、今泉地区のこれからについてお聞きできました。多様な立場のたくさんの人が暮らす、駅東の玄関口の地域として、発展に、まちぴあも微力ながら協力させて頂きたいです。(小倉)

次世代とともに備える

戸祭地区四丁目自治会の防災マニュアル

取り組みの始まり

戸祭地区四丁目自治会による防災マップづくりは、2023年に 実施された世帯調査をきっかけに始まりました。調査の結果、 当地区は大きな川がなく高台に位置しているため、水害のリス クが非常に低く、市の防災マップでも浸水危険区域に指定され ていません。こうした地域特性を踏まえ、「地震に重点を置い た防災マニュアルを作成しよう」という動きが生まれました。

子どもたちと歩く地域調査

最初のステップは、地域の子どもたちと一緒にまち歩きをしながら、危険箇所や防災拠点を調査する活動でした。消火栓や避難所の場所はもちろん、瓦屋根の建物や自動販売機の設置場所など、普段見慣れた風景を防災の視点で見直すことで、住民にとって新たな気づきがありました。「次世代とともに考えることで、防災がより身近になる」という思いが込められた取り組みです。



誰が見てもわかるシンプルで絵を多用したデザイン

本プロジェクトに参加した全員で作成した原案をもとに、専門学校の学生がデザインを担当しました。避難所や消火栓はアイコンで示し、危険箇所は色分けするなど、またシンプルで絵を多用することで誰もが一目で理解できる工夫が随所に盛り込まれています。カラフルで見やすい仕上がりは、子どもから高齢者まで安心して手に取れるデザインとなり、「防災」という堅いテーマを親しみやすく変えました。



みんなで作り上げたプロセス

制作過程では、自治会役員や住民、関係者が参加する会議や説明会が何度も開かれ、意見交換を重ねながら完成度を高めていきました。2024年9月には「防災マニュアルキックオフ会」が開催され、マニュアル制作の背景や進捗を共有する場となりました。そして今3月には、完成した防災マニュアルを地域に報告する「完成報告会」が行われ、これまでの取り組みを振り返るとともに、今後の活用方法についても話し合われました。

完成した防災マニュアルの役割

完成した防災マニュアル、特に地図には避難所や消火栓の位置だけでなく、災害時に必要な情報が多く記載されています。「見てすぐわかる」「誰もが使える」という視点を大切にしたこのマニュアルは、地域住民の安心につながる大切なツールです。現在は自治会を通じて全世帯に配布され、家庭での備えや日常の防災意識の向上に活用されています。

防災を暮らしの一部に

取材を通して感じたのは、「防災は特別なものではなく、暮らしの一部である」という住民の思いです。子どもも大人も学生も一緒になって取り組んだ今回の活動は、防災をより身近なものにし、未来の安心を形にする大きな一歩となりました。



vol. 2 このまちの、あのコの話! 「フレッシュに香る、地域をつなぐ歌声」

あの夏の夜、宇都宮花火大会で鳴り響いたのはエネルギーあふれる歌声。その声の主こそ、 演歌を中心に歌手活動している男子大学生、梵天ゆず太郎さんです。情熱的な歌唱とあたたか いパフォーマンスで多くの人々に愛されています。

きっかけは3歳の頃に行ったカラオケです。初歌唱は名曲「川の流れのように」。現在は宇都 宮大学に通いながら、地元のお祭りやイベント、老人ホームなどで地域を盛り上げています。 「一人でも『来てよかった』と思ってもらえるステージにしたい」――その言葉の通り、ゆず 太郎さんのパフォーマンスには観客一人一人への思いが詰まっています。「最初はスマホを見 ていた観客が、最後にはライトを振ってくれた。表情がふと変わった。その瞬間に、『音楽に は人の心を動かす力がある』と深く実感します。」といいます。

今後は学園祭など新たなステージにも挑戦し、応援してくれている方へ恩返しをしたいと語 るゆず太郎さん。より多くの人に音楽の力を届けるために、今日も宇都宮のどこかで歌声を響 かせています。

梵天ゆず太郎 / 2006年11月、宇都宮市生まれ。'25年宇都宮大学地域デザイン科学部に入学。 オリジナル曲「昇り銀龍夢花火」は、24年第2回日本作曲家協会「オリソンマーケット&セミナー」 の15作品に選出にされ、'25年「うつのみや花火大会」イメージソングに選出。



梵天ゆず太郎さん

話題のこれ!

商品紹介

『丹精込めた一杯に出会える場所 -5094(コレキヨ)utsunomiya-』



宇都宮市で2012年に誕生した『5094(コレキヨ)utsunomiya』は、独自のスタイルで評 判を呼んでいるラーメン店です。看板メニューは「昆布水つけ麺」。打ちたての麺に、旨味の 強いスープとキレのあるカエシ、さらにがごめ昆布で粘りを出した昆布水を合わせることで、 他にはない味わいを生み出しています。一口ごとに、素材が織りなす絶妙なバランスを楽しむ ことができます。

お店の想いは、地域にこだわらず、訪れた一人ひとりのお客さまに心を込めた一杯を届ける こと。その丁寧な姿勢が、多くのファンを惹きつけています。看板メニュー以外のおすすめは 「唐揚げ」とのこと。ラーメンとの相性も抜群で、食欲をさらにそそられる逸品です。 宇都宮の地で着実に愛され続ける「5094utsunomiya」。こだわり抜いた昆布水つけ麺と 心温まるおもてなしを、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

登録団体紹介

学生による地域活動が盛んな栃木へ /春フェスinオリオンスクエア実行委員会

「栃木をイベントの力で盛り上げたい」そんな想いから、県内出身の 大学生5名が2024年に結成した学生団体です。宇都宮市のオリオンスク エアを拠点に、栃木に根差した様々なイベントを主催しています。

メインの主催イベントは「春フェスinオリオンスクエア」。今年2月 に初めて開催し、約2800人の方が来場しました。会場では県内のシニ アジャズバンドや大学生ダンスサークルなど、10団体がステージでパ フォーマンスを披露し、キッチンカーなどの飲食出店も賑わいました。 当日は、「地域を盛り上げたいという想いを持った学生が多くいる」

ことを広めるため学生ボランティアを募り、イベント運営に参加しても らいました。また、イベントの開催時には、出演・出店団体との繋がり を大切にし、協力し合いながら進行しているとのことです。「来場者 が"また来たい"と思えるイベントを企画したい」と代表の白岩さん。 2026年2月には第2回目の春フェスも開催予定です。若者の情熱が地域 を動かし、未来への希望を灯す一そんな大学生たちの姿が宇都宮にあり ました。

団体名 春フェスinオリオンスクエア実行委員会 オリオンスクエア 活動場所

不定期(月1,2回) 活動日時 連絡先 spring.fes.orion@gmail.com

代表者 白岩大夢

メンバー募集あり。 iイベント出店や出演、ボラン ティアスタッフに興味がある 学生の方はお気軽にご連絡く ださい。



あの素晴らしい歌をもう一度! / 宮フォークソングクラブ

シルバー大学校で出会った3名が「このまま終わらせるのはもったいな い」と立ち上げたフォークソングクラブ。熱い想いが仲間を引き寄せ、今 や40名近くが在籍。年々盛り上がりを見せています。

活動は3年目を迎え、メンバーは60~70代。市内外から音楽好きが集 まり、毎週練習に励んでいます。歌や楽器の経験のない方が大半ですが、 皆で心をひとつに昭和の名曲を楽しむことができるのが魅力です。

「フォークソングには青春時代に戻れる力があるんです」と話すのは、ク ラブの活気を支える代表の櫻井さん。

演奏曲は「遠い世界」「小さな日記」等、現在ではレパートリーが86 曲にものぼります。手話を交えた演奏も行い、地域の演芸会では「懐かし くて感動した」との声が届くそう。

「この年齢になっても、新しい歌を覚え身につくと自分の成長が感じら れてうれしい気持ちになります」とやりがいを話すメンバー。

歌で元気をもらい、仲間と笑顔を増やし続けている素敵な団体です。

団休名 宮フォークソングクラブ 豊郷地区市民センター 活動場所

宇都宮市まちづくりセンター(不定期)

活動日時 基本 毎调金曜日

月2回 楽器の演奏者練習日

代表者 櫻井敏男

興味がある方は、ぜひ見学から。 お問合せは「まちぴあ」まで。 *今年7月に出演した、

「天王祭奉納演芸」での演奏が 今泉八坂神社(公式) YouTubeチャ ンネルで見ることができます。



連載コラム

地域づくり・まちづくりと社会教育(2)

~地方創生と地域系学部と社会教育~

若園 雄志郎 准教授 / 宇都宮大学 地域デザイン科学部

「教育」の場面を思い浮かべてください、と問いかけたとき、小学校などの学校における授業の風景が思いつく方は多いかと思います。しかし、学校における教育(学校教育)だけが教育のすべてではないことも同時におわかりかと思います。人間社会におけるいろいろな教育活動のうち、特に必要だと考えられた事項について体系的に学べるようにしたのが学校だと考えられます。そのため、学校内における教科と教科の間や、学校を含んだ地域全体にも教育は存在しています。なお、「教育」とは何か、というところまで広げてしまうとさすがに大変ですので、とりあえずは「知識や経験を得ることで人間性をより豊かにしていく営み」としておきましょう。

さて、最近の学校では「探究」がキーワードの1つとなっています。これは特定の教科だけではなく複数の教科にまたがるような課題、あるいは地域や社会の課題について個人またはグループで考えるものですが、これについてはよく「答えがない問いに取り組む」ということがいわれます。ただ、これだとちょっと誤解されてしまうかもしれないと感じています。これをそのまま受け取ってしまうと、「じゃあ、どうすればいいの?」と思ってしまうでしょう。つまり、あたかもGPSもコンパスもない状態で大海原に取り残されたように感じてしまい、思考停止になってしまったり、他の人のアイデアに無批判に乗っかってしまったり、ということが起きてしまうように思います。



そこで、「答えがない」ということの意味として、個人やグループや地域によって求めていることは異なっており、また一方で、関わるすべての人が完全に納得するような絶対的な答えを出すのも難しい、ということに気づく必要があります。その時々で「最適解」があるため、そこへ向けて調べたり悩んだり、あるいは意見を出し合ったりすることが大切です。むしろ、そのプロセスこそ価値があるということもできるでしょう。

このことは学校だけで行われる営みではありません。地域においてもさまざまな課題が存在しています。このコラムで前回触れた「多文化共生」というキーワードも近年ではみんなで考えていくべき課題といえます。社会教育では、地域におけるさまざま課題に対して、人と人とのつながりをつくっていくことで解決への方策を探ろうとしていきます。ただ、何のきっかけもないとなかなかつながりをつくっていくことはできません。そこで、社会教育を専門的に進めていく存在として社会教育主事・社会教育士がいます。

この専門性について、ファシリテーション能力・プレゼンテーション能力・コーディネート能力だと説明されることがありますが、要はいかに地域のことを知り、そこに暮らす人々(もちろん、学校も含まれます)が豊かに幸せになっていけるかを、「つながり」をキーワードとして考えていける、ということなのかと思います。

<書籍紹介>

山本冴里 編

『複数の言語で生きて死ぬ』人生物語編、くろしお出版、2025

まちぴあからのお知らせ

まちぴあ祭り

今年もまちぴあ祭りの季節がやってきました。まちぴあ祭りは、多くの市民の皆様のまちづくりへの理解を深め、参加を呼び掛ける場として開催されてきました。館内のそれぞれの部屋で、登録団体の方々が交流企画やパフォーマンス、物品の販売を行います。今回はそれらの出し物に加え、8月に開催された小学生が手作り品を販売する小さなマルシェ、「コドモール」も同時開催されます。是非お越しください。



写真から:昨年度のまちぴあ祭りの様子

まちぴあ新規登録団体

- うつのみや未来共創ラボ交流イベント「100人カイギ」他自主事業の企画運営。
- (特非) BORDER FREE 栃木ベース
 子どもを対象にした居場所及び学習支援活動。
- 夢の途中

市内福祉施設での歌唱、ゲーム、踊り等の訪問活動。

- ENGLISH MAGI イングリッシュ・スピーキング・ソサエティ 英会話、ビジネス英語のレッスン会の実施。
- 医療法人賛永会 市主催事業(食育フェア等)、健康講座などへの協力、実施。

日本南京玉すだれを楽しむ会

各種イベント、訪問活動での南京玉すだれの実演活動。

• セーフセンチネル

JR宇都宮駅東口を中心とした防犯パトロール活動。

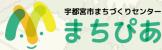
シルバービデオ工房

ビデオ撮影、動画編集・投稿の作業及び指導に関する活動。

• 算数·数学研究会

中学受験算数や数学に関する学習支援活動。





指定管理者:公益財団法人 とちぎYMCA









〒321-0954 栃木県宇都宮市元<mark>今泉5丁</mark>目9-7 TEL:028-661-2778 FAX:028-689-<mark>2731</mark>

URL:http://u-machipia.org

開館時間 午前9時から午後9時30分まで(日祝は午後5時まで)

休館日 年末年始(12月29日〜翌年1月3日) 臨時休館(施設点<mark>検等)半年ごと年2回 アクセス</mark> ライトライン 各停「駅東公園前駅」(上り・下り)下<mark>車徒歩7分程度</mark>

> バス JR宇都宮西口から平出工業団地行きまたは柳田車庫行き 「白楊高校」下車 徒歩5分程度

電車 JR宇都宮駅東口から徒歩15分程度

センター内駐車場 28台